

## トルコの金融市場動向 Weekly Report

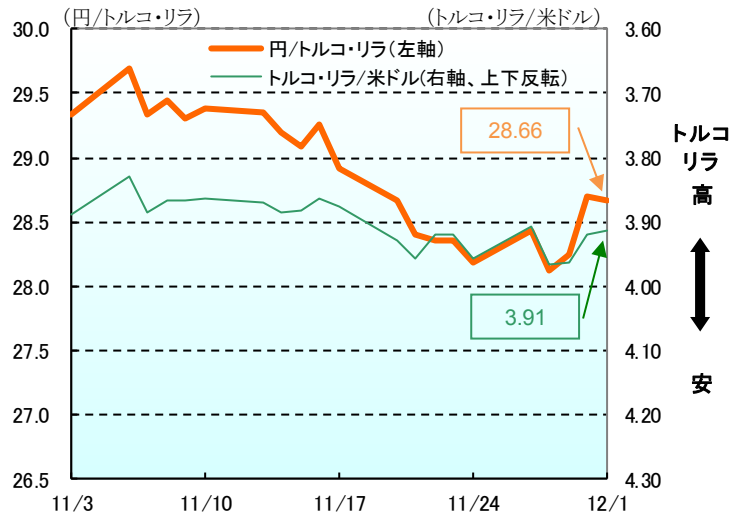
【2017年11月25日～2017年12月1日までの推移】

### 【1】先週の回顧

先週のトルコ・リラ相場は1週間を通して見ると対米ドル、対円で上昇となりました。またトルコの2年国債金利は低下しました。

トルコ金融市場では、引き続きトルコ中央銀行の金融政策が通貨の安定に寄与するかをめぐる思惑に左右されやすい展開となりました。トランプ米大統領とエルドアン大統領の電話会談を受けて、対米関係の悪化懸念が後退したことや、通貨安が続く場合にはトルコ中央銀行がさらなる金融引き締めを実施するとの見方などがトルコ・リラを支え、1週間を通してみると通貨・債券共に堅調に推移しました。

【トルコ・リラ 為替推移】 (2017年11月3日～2017年12月1日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

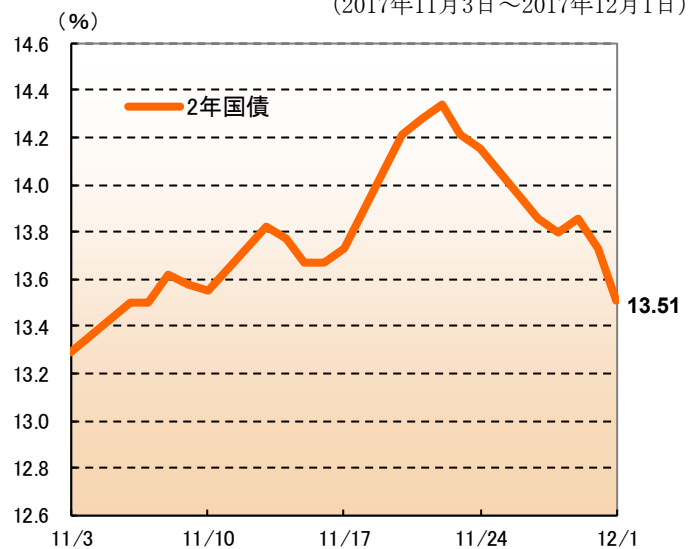
### 【2】今週の見通し

今週は、11月の消費者物価指数が発表されます。足元ではインフレが加速を続けており、鈍化の兆しが見られるかに注目が集まります。

今週についても、引き続きトルコ・リラの動向に注目が集まりやすいと想定します。また、マネー・ロンダリング事件に関与した疑いでFBI(米国連邦捜査局)に拘束されているレザ・ザラブ氏の裁判にも注意が必要と考えます。既に別の裁判の証人として、不正取引をエルドアン大統領など政府要人が承認していたことを証言している模様です。裁判の結果次第では、トルコの金融機関などが米国から経済制裁を受ける可能性もあり、対米関係の悪化が懸念される可能性もあると考えます。

【トルコ 金利推移】

(2017年11月3日～2017年12月1日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

#### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>